

第 96 回日本学生氷上競技選手権大会アイスホッケー部門競技要項

2023.11.16

1. 出場制限

- (1)ベンチ入りする選手は、ゴールキーパー最小 1 名、最大 2 名。プレイヤー最小 5 名、最大 20 名とする。試合開始の整列時にゴールキーパー 1 名スケーター 5 名に満たないチームは、没収試合とする。この際、不戦敗（スコアは 0-15）として扱う。
- (2)試合に際して、登録された責任者(チームを管理するスタッフ：監督、コーチ等)が不在のチームは、没収試合とする。この際、不戦敗(スコアは 0-15)として扱う。
ベンチ入りスタッフは最小 1 名、最大 6 名とする。スタッフとは監督・コーチ・トレーナーあるいは部長・副部長等とし（公財）日本アイスホッケー連盟に登録されている者とする。ただし、学生スタッフ（ドアマン・マネージャー・トレーナー等）は除く。
ベンチ入りする学生スタッフは、フルフェイスマスクの付いたヘルメットを着用すること。
- (3)外国籍学生の試合出場は、1 校につき 3 名以内とする。

2. 競技方法

- (1)ファーストディビジョンは、32 校によるトーナメント戦により 1 位～5 位を決定する。
- (2)セカンドディビジョンは、8 校によるトーナメント戦により 1 位～8 位を決定する。2 日目に順位決定予備戦を行い、最終日に順位決定戦を行う。(参加校は、全て 3 試合実施)
- (3)対戦表の左側を仮ホームとし、本部席から向かって左側のベンチに入る。
- (4)仮ホームチームがユニホームの色を選択できる。監督会議にはユニフォームを持参とし、1 回戦と 2 回戦のユニフォーム確認を行うが、3 回戦以降はチーム間で協議すること。チーム間の協議が整わない場合には、速やかに大会事務局に相談し、大会を運営する連盟の指示に従うこと。
- (5)試合でのホームとビジターは、パケットスにて決定する。その際、仮ホームチームが裏表を選択できる。

3. 試合時間と練習時間

正味 20 分×3 ペリオドで行なう。各ペリオド間のインターバルは、10 分とする。
練習時間は、10 分間とする。（練習終了後に製氷あり）

セカンドディビジョンの下位順位戦（5 位～8 位決定戦）は正味 15 分×3 ペリオドで行なう。各ペリオド間のインターバルは、10 分とする。
練習時間は、5 分間とする。（練習終了後に製氷なし）

4. 競技規則

(公財)日本アイスホッケー連盟、主管連盟及び本大会事務局の定めるローカルルール以外は、原則として、国際アイスホッケー連盟の定める公式国際競技規則に準ずる。

タイムアウトは、全試合、各チーム1回(30秒)使用できるものとする。

5. 同点の場合(全試合共通)

第3ピリオド終了時点において同点の場合、下記の方法で勝敗を決定する。

3分間のインターバル後、サイドチェンジは行わず、正味5分間のスケーター3対3によるサドンデス方式の延長戦により勝敗を決定する。延長戦でも決しない場合は、下記による「ペナルティー・ショット・シュートアウト」(PSS)にて勝敗を決定する。

PSSは、両チーム5名の方式で行うが、ローカルルールとして、製氷は行わず、両サイドを使用し、各チームのゴールキーパーは第3ピリオドと同じサイドを利用する。ただし、レフェリーが氷面を確認し、両サイドを利用することがどちらかのチームに不利になると判断した場合には、レフェリーが使用するサイドを決定する。なお、5名で決着がつかない場合にはタイ・ブレイク方式(サドンデス)で行い、タイ・ブレイクは、同じ選手が何回でも続けてショットを行っても良い。

6. 注意事項

(1) 今大会より、タイダウンストラップの着用義務がある。(ユニホームとパンツは、ストラップで密着させなければならない)

(2) 2004年1月1日以降に生まれた選手は、ネックガード・イヤガードを着用しなければならない。当該選手は、必ずオールメンバー表の記入欄にチェックを入れること。

(3) ユニホームの名前表記は、一切規制しない。ただし、テープで名前を隠すことは認めない。名前を隠す場合には、同系色の布を縫い付けること。

(4) 新ルールとして、5人对5人のプレー中にペナルティが発生した場合、キャンセルアウトにより、ペナルティベンチに選手をおかななければならないが、氷上に必要な人数(スケーター5名)を出せない場合には、その場で試合没収(スコアは0-15)となる。

(5) 今大会、コーチチャレンジ方式は導入しないものとする。

(6) 準々決勝以降の試合については、ゴール判定についてビデオサポートシステムを導入し、レフェリーから要請があった場合に映像の確認をする。

(6) 試合中、ベンチ内での写真・動画撮影は禁止する。

(7) コーチングの目的にのみ、電子機器の使用を認める。

7. その他

(1) 主催者及び主管団体は、競技中における怪我について、一切の責任を負わない。

(2) 大会参加チームは保険に加入すること。